

第2章 がんを取り巻く現状

1 東京都のがんの状況

【東京都のがんの特徴】

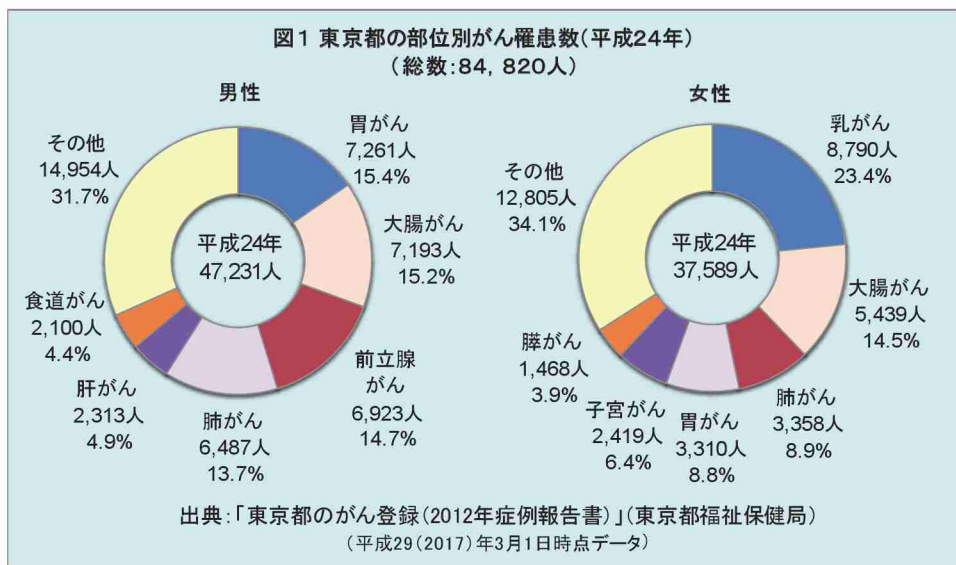
- 3人に1人ががんで死亡、死亡者数の約85%が65歳以上
- 75歳未満年齢調整死亡率は、平成17（2005）年から27（2015）年までの10年間で約17.0%減少
- 全国平均をやや下回る75歳未満年齢調整死亡率
- 東京都の人口は平成37（2025）年をピークに減少に転じるも、65歳以上の人口は増加し、高齢化によるがん患者数が増加する見込み

(1) がんの罹患・死亡等の状況

～3人に1人ががんで死亡、死亡者数の約85%が65歳以上～

<がんの罹患数¹⁰>

- 都の地域がん登録データによると、平成24（2012）年1年間でがんにかかった都民の数（罹患数）は、約8万5千人となっています。部位別に多い順から見ると、男性では胃がん、大腸がん、前立腺がんの順で、女性では乳がん、大腸がん、肺がんの順になっています（図1参照）。

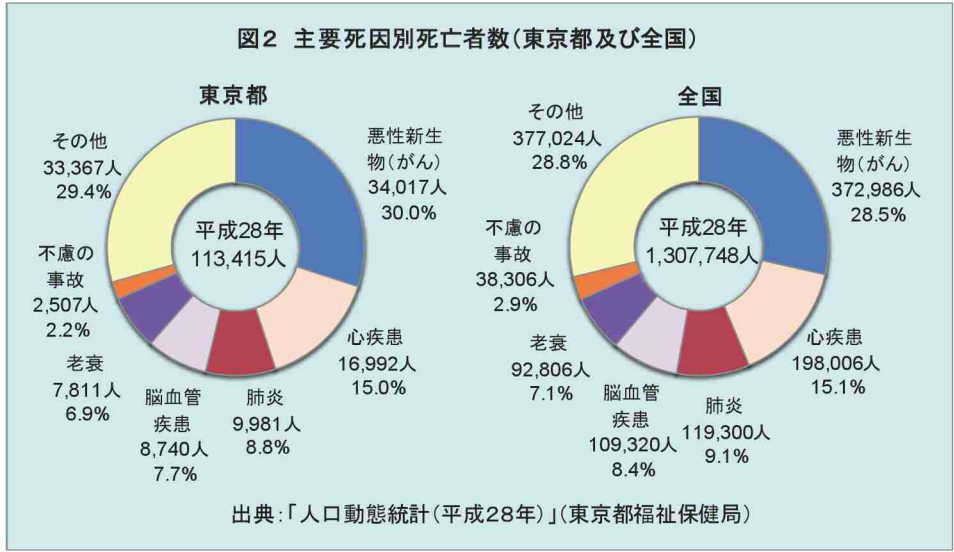


※ 本計画の各図表の値は、四捨五入により算出しているため、図表中に記載している割合を合計しても100%にならない場合があります。

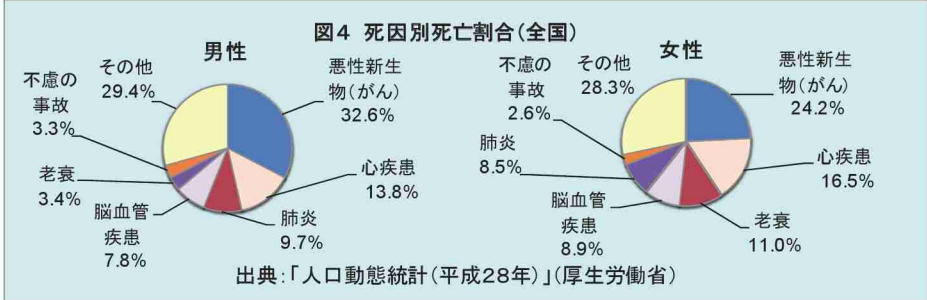
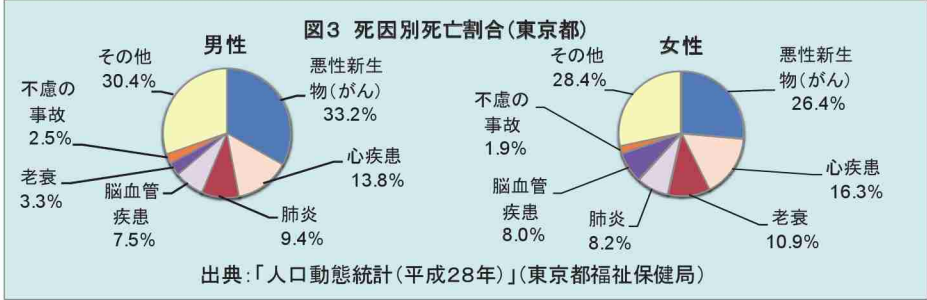
10 「罹患数」：一定の期間内（通常は1年）にがんと診断された数（1人の患者が複数のがんと診断されることがあるため、がん患者数とは異なる。）。なお、「東京都のがん登録（2012年症例報告書）」（東京都福祉保健局）における罹患数は、上皮内がんを除いた数値を記載

<がんによる死亡者数>

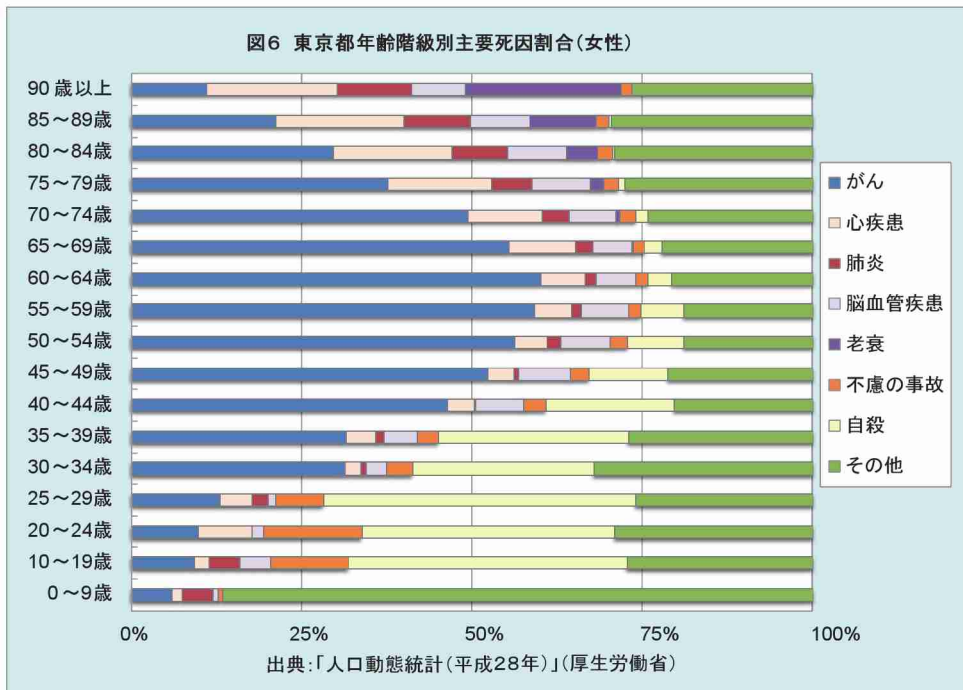
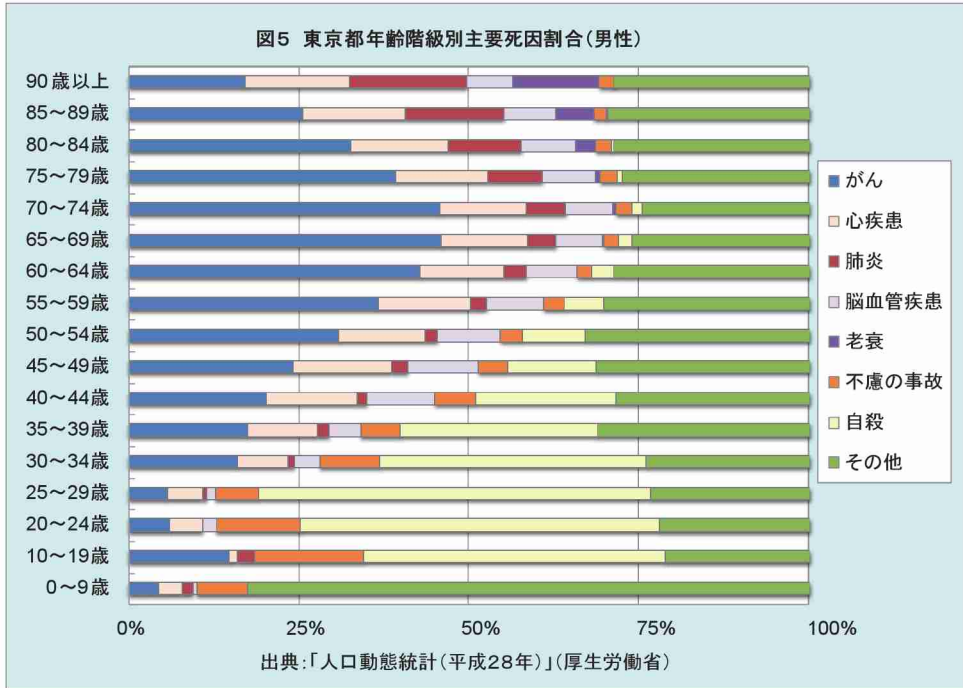
○ 平成 28 (2016) 年 1 年間における都民の全死亡者数である約 11 万 3 千人のうち、がんによる死亡者数は約 3 万 4 千人で全死亡者数の 30.0% を占め、およそ 3 人に 1 人ががんで亡くなっています。一方、全国の全死亡者数におけるがんによる死亡者数の割合は 28.5% となっており、都の方がやや高くなっています (図 2 参照)。



○ また、性別に見ると、男性では全体の 33.2%、女性では 26.4% を占めています。全国の割合は、男性 32.6%、女性 24.2% となっており、男女とも都の方がやや高くなっています (図 3・4 参照)。



○ 年齢階級別に死因の構成割合を見ると、男性では40歳代後半、女性では30歳代前半からがんが死因の第1位となり、男性では60歳代後半、女性では60歳代前半で死因に占める割合が最も高くなっています（図5・6参照）。



<がんによる死亡者数の推移>

○ がんによる死亡者数は、平成 28（2016）年には 34,017 人となり、年々増加しています（図7参照）。



<部位別のがんによる死亡者数>

○ 都のがんによる死亡者数を部位別に多い順から見ると、男性では、肺がん、胃がん、大腸がん、膵がんの順で、女性では肺がん、大腸がん、膵がん、乳がんの順になっています（表1参照）。

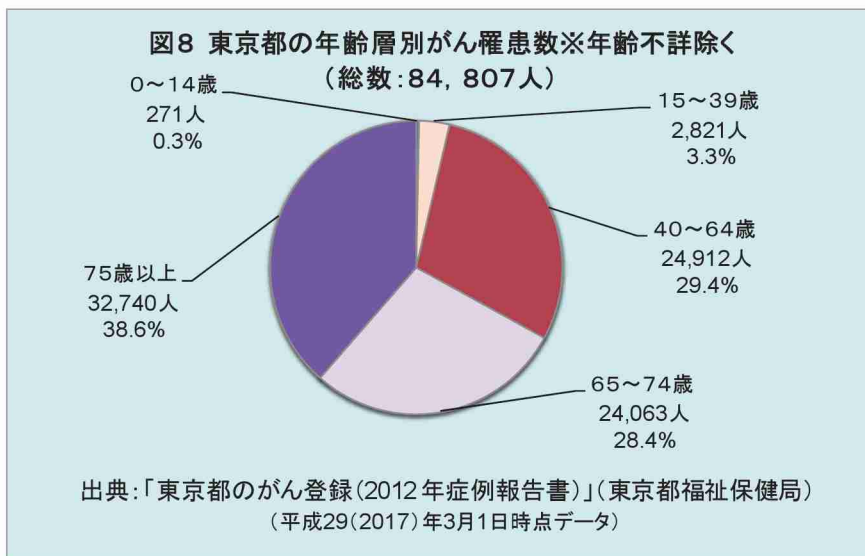
表1 東京都と全国のがんによる死亡者数(部位別)

	●東京都 34,017人		●全国 372,986人	
	男性 19,869人(58.4%)	女性 14,148人(41.6%)	男性 219,785人(58.9%)	女性 153,201人(41.1%)
第1位	肺がん 4,512人 22.7%	肺がん 2,096人 14.8%	肺がん 52,430人 23.9%	大腸がん 23,073人 15.1%
第2位	胃がん 2,622人 13.2%	大腸がん 2,094人 14.8%	胃がん 29,854人 13.6%	肺がん 21,408人 14.0%
第3位	大腸がん 2,574人 13.0%	膵がん 1,519人 10.7%	大腸がん 27,026人 12.3%	膵がん 16,415人 10.7%
第4位	膵がん 1,572人 7.9%	乳がん 1,477人 10.4%	肝がん 18,510人 8.4%	胃がん 15,677人 10.2%
第5位	肝がん 1,433人 7.2%	胃がん 1,348人 9.5%	膵がん 17,060人 7.8%	乳がん 14,015人 9.1%
第6位	前立腺がん 1,222人 6.2%	肝がん 769人 5.4%	前立腺がん 11,803人 5.4%	肝がん 10,018人 6.5%
第7位	食道がん 1,002人 5.0%	胆がん 693人 4.9%	食道がん 9,533人 4.3%	胆がん 8,995人 5.9%
第8位	胆がん 759人 3.8%	子宮がん 613人 4.3%	胆がん 8,970人 4.1%	子宮がん 6,345人 4.1%

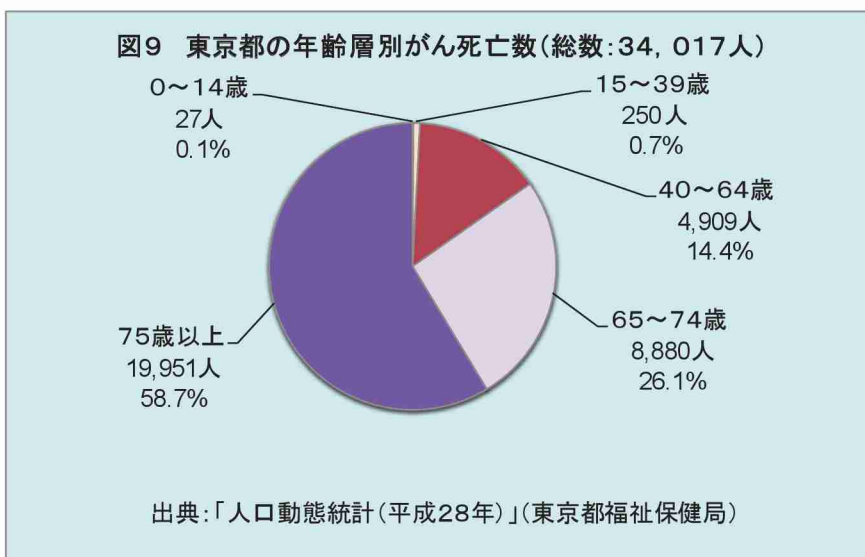
出典:「人口動態統計(平成28年)」(厚生労働省)

<年齢層別のがん罹患数とがんによる死亡者数>

○ がんの罹患数を年齢層別に見ると、65歳以上の割合が約67%です（図8参照）。



○ がんによる死亡者数を年齢層別に見ると、65歳以上の割合が約85%となっています（図9参照）。



(2) がんの年齢調整死亡率の推移

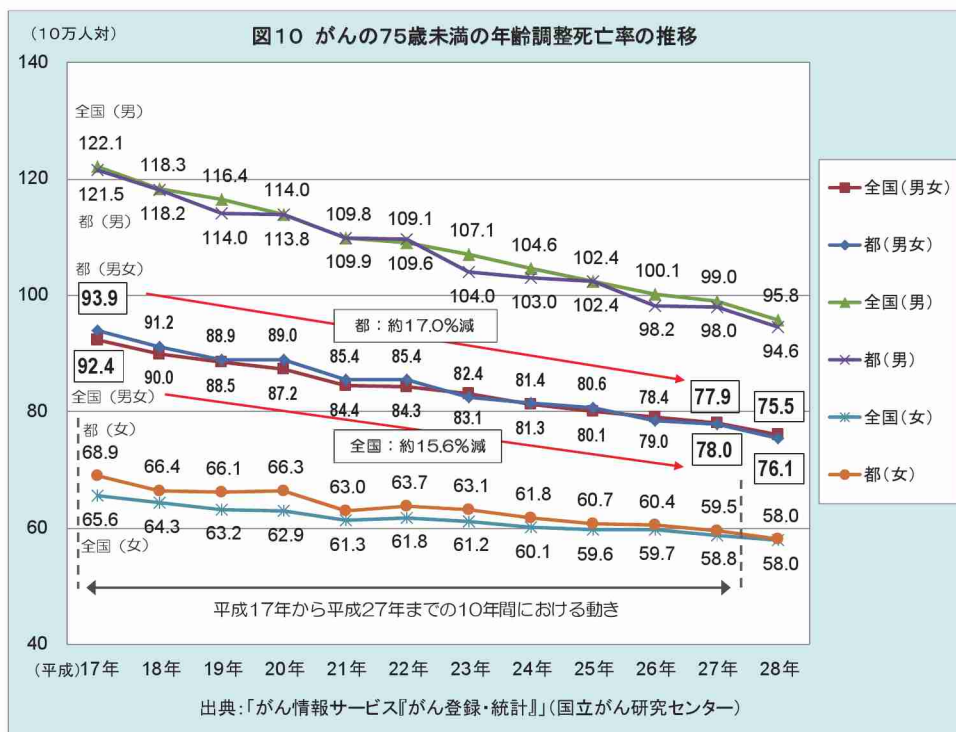
～平成17年から平成27年までの10年間で約17.0%減少～

<がんの年齢調整死亡率>

○ これまで、がんの75歳未満年齢調整死亡率を10年間で20%減少させることを全体目標として、取組を進めてきました。

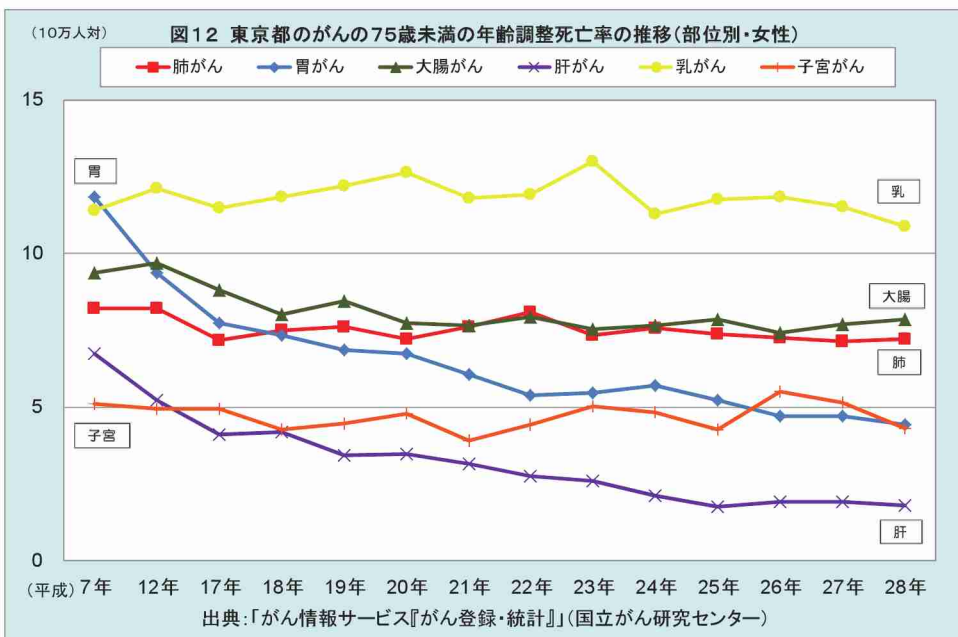
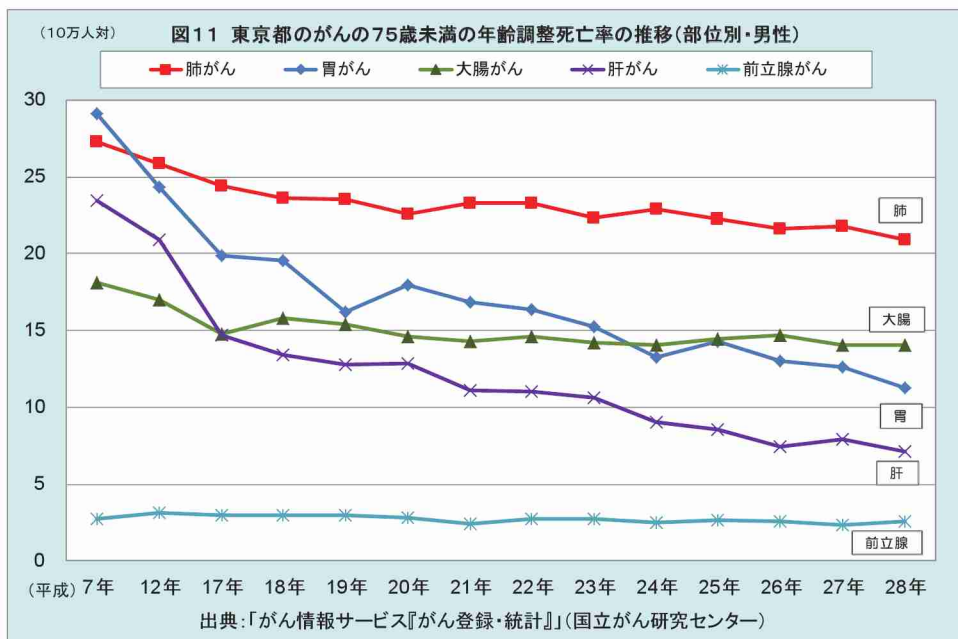
○ 都では、平成17(2005)年には男女全体で93.9でしたが、10年後の平成27(2015)年には77.9となり、約17.0%減少しました。全国では、平成17(2005)年には92.4でしたが、平成27(2015)年には78.0と約15.6%減少しています。両者を比較すると、都の方が死亡率の減少幅が大きくなっています(図10参照)。

○ 直近の平成28(2016)年には、都の死亡率は75.5となり、更に減少しています(図10参照)。



<部位別の年齢調整死亡率>

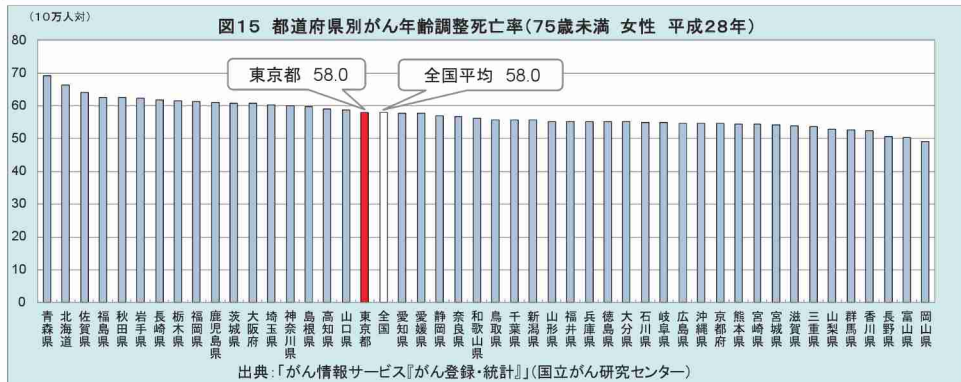
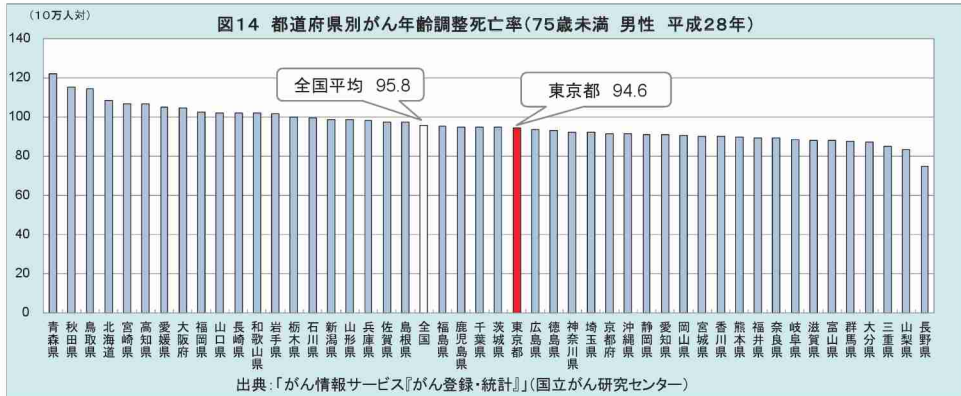
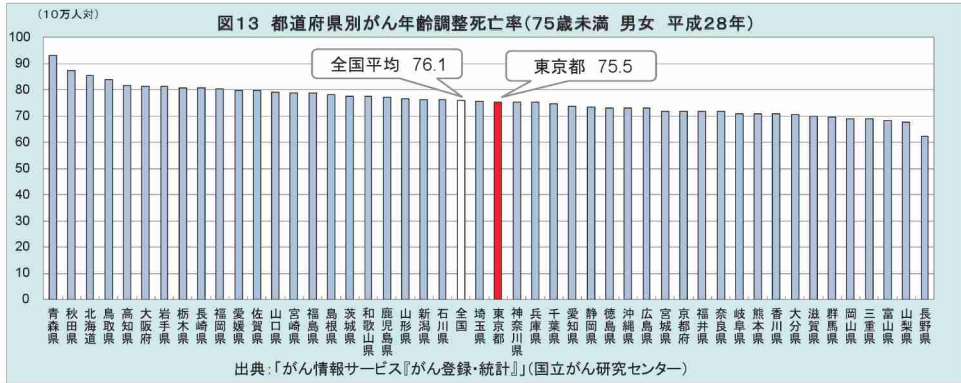
- がんの部位別に死亡率の推移を見ると、男女とも、胃がんと肝がんによる死亡率が特に減少しています（図 11・12 参照）。



(3) がんの年齢調整死亡率の全国との比較～全国平均をやや下回る死亡率～

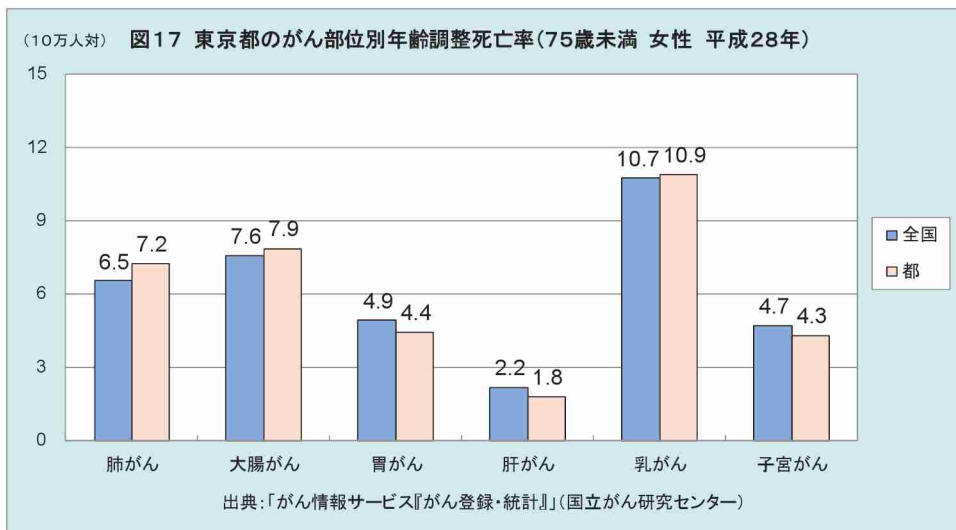
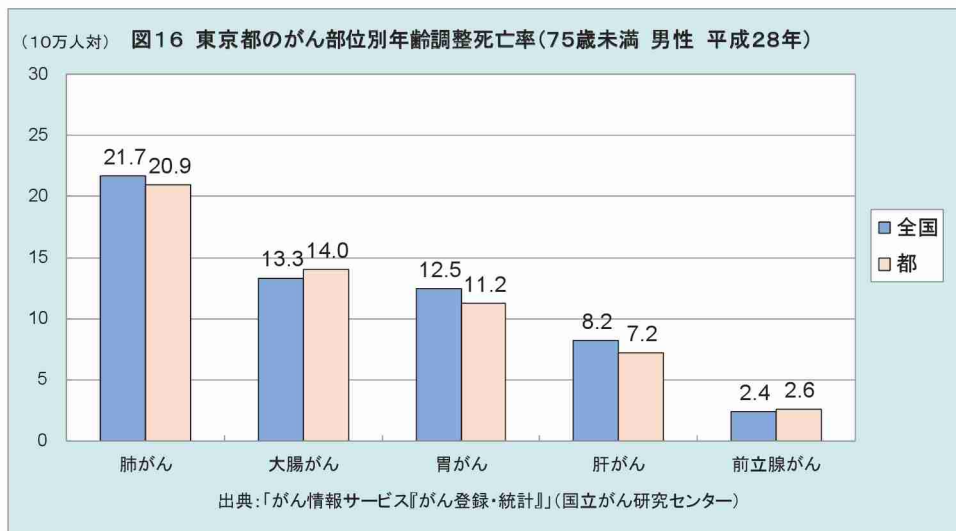
<がん全体の年齢調整死亡率>

○ 平成28(2016)年のがんの75歳未満年齢調整死亡率は、全国平均をやや下回っています。47都道府県中の都の順位を見ると、死亡率の高い方から数えて、男女計では24位とちょうど真ん中です。男女別で見ると、男性では25位、女性では18位と、女性の死亡率の順位がやや高いですが、全国平均と同じ数値となっています(図13・14・15参照)。

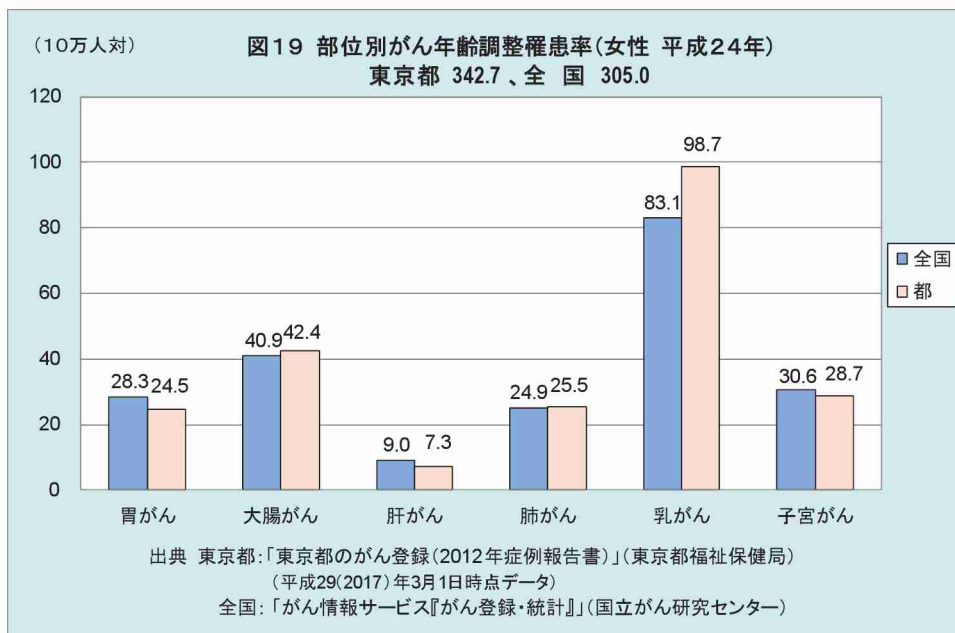
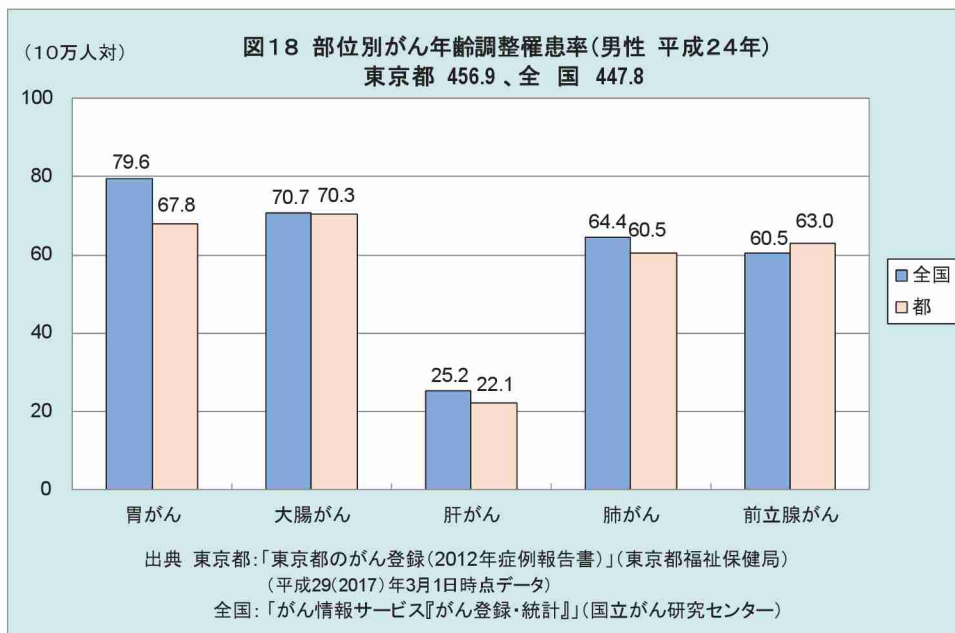


<部位別の年齢調整死亡率>

- がんの部位別の75歳未満年齢調整死亡率について男女別に全国と比較すると、男性では、大腸がんと前立腺がんで、女性では、肺がん、大腸がん、乳がんで全国を上回っています（図16・17参照）。



○ 一方、がんの部位別の年齢調整罹患率¹¹を見ると、全国と比較して、男性では前立腺がん、女性では大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんで全国を上回っています（図18・19）。



¹¹ 「年齢調整罹患率」: 罹患数を対象集団の人口で割ったものを、(粗)罹患率といい、年齢調整罹患率は、高齢化の影響等により年齢構成が異なる集団の間で罹患率を比較したり、同じ集団の罹患率の年次推移を見るため、集団全体の罹患率を基準となる集団の年齢構成(基準人口)に合わせた形で算出した罹患率(人口10万対)。